

令和3年学生生活調査

1 調査目的

本調査は、本学学生の生活状況を把握することにより、学生生活の実情を明らかにし、学生生活支援、学修支援の充実のための基礎資料を得ることを目的としている。平成24年度に行った「学生生活実態調査」を受けて行った令和2年度の調査アンケートを修正するとともに、コロナ感染症に関する質問を追加した。

2 調査概要

調査は在籍学生全員（大学院生を含む）を対象とし、アンケート用紙を配布し、アンケート用紙、あるいは google form に回答させた。質問項目については、『第5回学生生活実態調査 平成24年度アンケート集計』（高野山大学学生サポート課、2013年1月）をもとに、独立法人日本学生支援機構の「平成28年度学生生活調査」（以下「学生支援機構の調査」とする）も参考にしながら作成した。

①調査方法：アンケート調査

②期 間：2021年1月17日～2021年1月28日

③在籍学生：146名（高野山117名・河内長野11名、難波18名）

④回答者数：66名（45.2%）

性別	女性	男性	その他	総計
高野山	15	35	2	52
河内長野		9		
難波	3	2		5
計	18	46	2	66

学科・専修	1.密教	2.人間	3.教育	4.別科	5.修士	6.博士	計
高野山	30	4	0	1	10	6	51
河内長野			9				9
難波	4	1					5
計	34	5	9	1	10	6	66

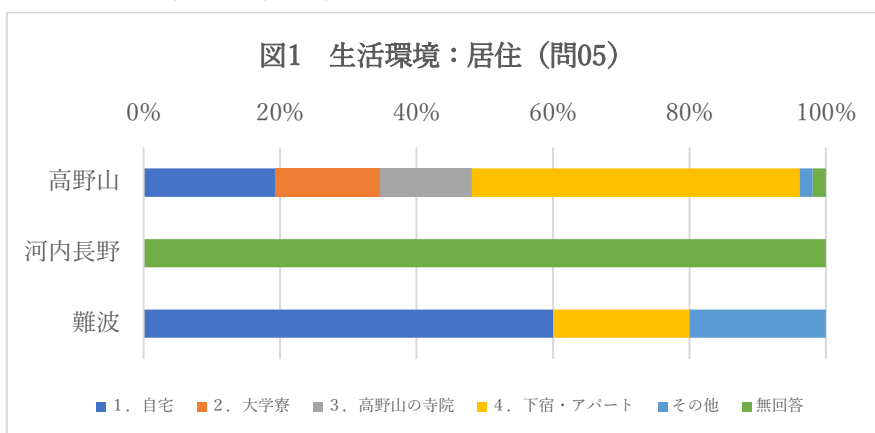
3 集計結果

本章では、アンケート調査の集計について概観する。昨年度の社会人の構成は、高野山キャンパス（以下「高野山」とする）では、30才代以下の学生が74%を占めていたが、本年度は30才以上が28.8%を占めている（若年年齢層の回答率の低下による可能性もある）。一方、難波サテライト教室（以下「難波」とする）では30才未満の学生がいなかった。また本年度より河内長野キャンパス（以下「河内長野」）に教育学科ができ、教育内容や教員が高野山キャンパスとは大きく異なる。そのために、本報告書では高野山と河内長野、難波に分けて集計した。

3-1 生活環境

居住先を見ると、難波の学生は自宅が多い（回答人数が少ないために参考である）のに対して、高野

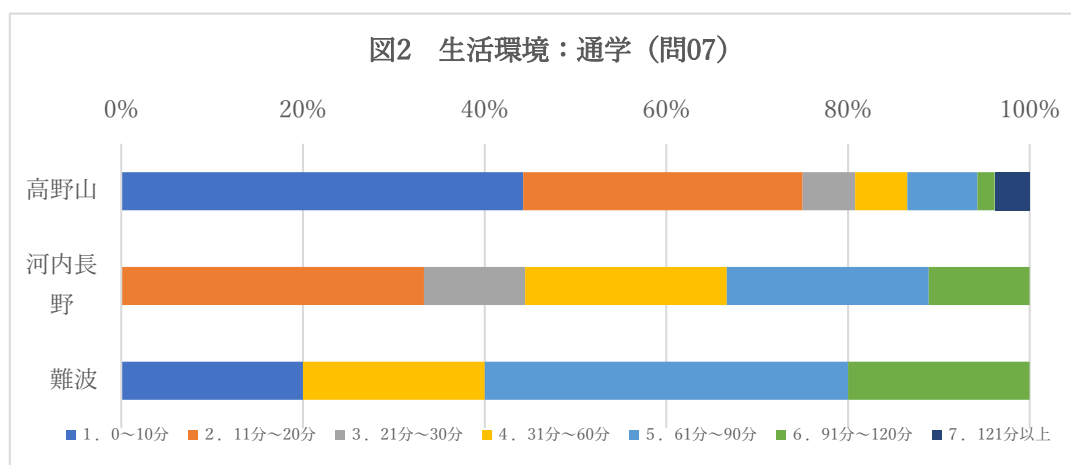
山では自宅以外が80.8%を占めている。高野山内（以下「山内」とする）寺院が13.5%、大学寮（女子寮・留学生男子寮）が15.4%であり、半数は下宿・アパートに住んでいる（図1）。調査が1月であったために、年度初めから移動していると考えられるが、多くの学生が山内に住んでいる。河内長野については回答を求めているが、自宅通学と考えられる。



通学時間は、居住先が影響する。自宅通学が多い難波では31分以上が80.0%を占めており、61分以上は60.0%である。仕事が終わって夜間に通学する学生には、授業が終わって帰宅し、さらに学修時間を確保するのは相当な労力を要すると考えられる。

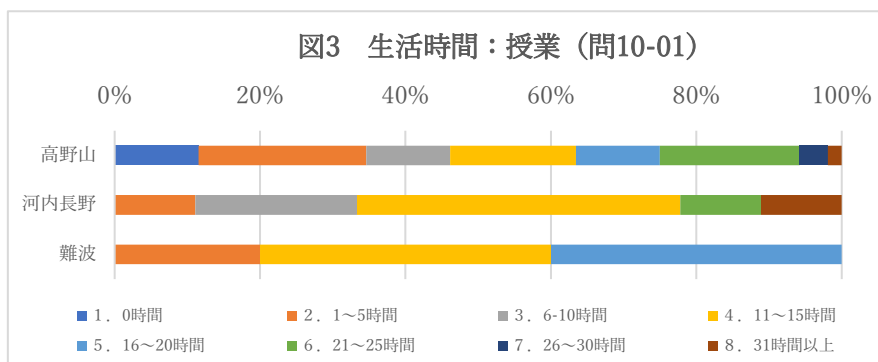
一方、高野山では30分以内が80.8%を占めている（図2）。121分以上の学生が2名いるが、高野町在住が43名（82.7%）であり、通学時間だけを見ると、高野山の学生は時間的に余裕がある。しかし、逆に通学による生活の切り替えができていない可能性もある。

河内長野では、30分以下は44.4%であり、60分以下は66.7%である。91分以上が1名であった。

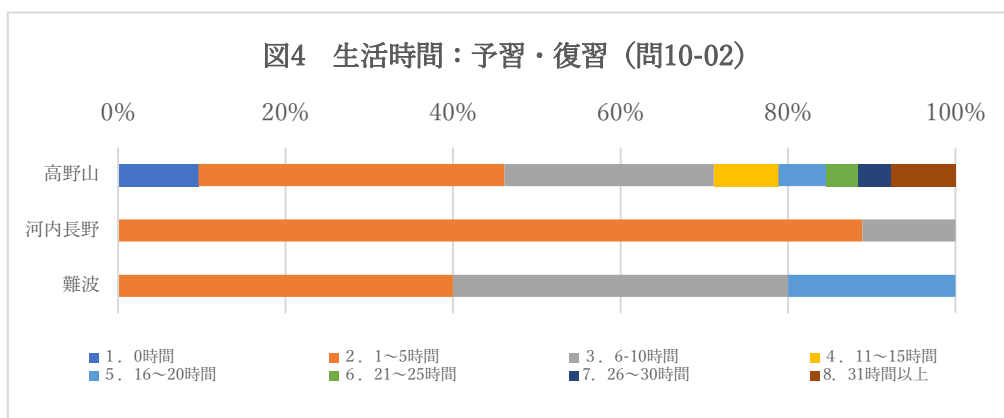


3-2 生活時間

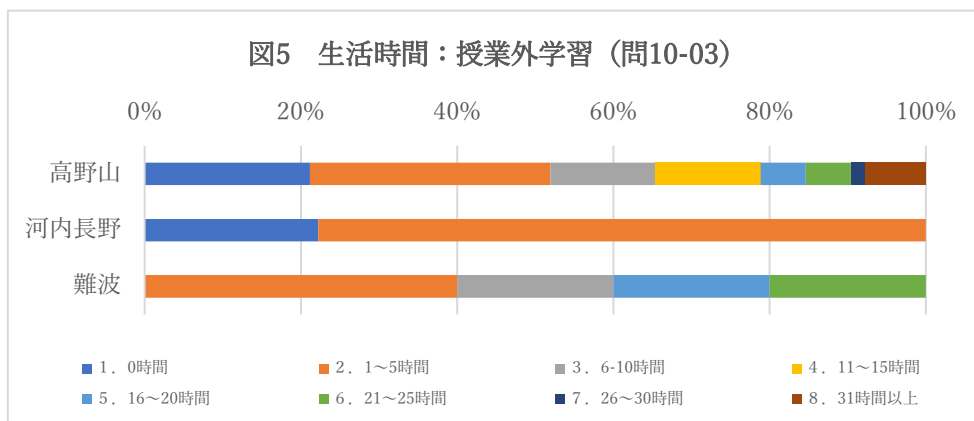
最近1週間の授業時間を見ると、高野山では授業時間数の分散が大きい（図3）。河内長野は1回生しかいなかったためか、授業時間数は比較的均質化している。難波の学生はさらに均質化しており、授業時間が少ない。これは仕事をしながら学んでおり、授業時間が限られているからかもしれない。



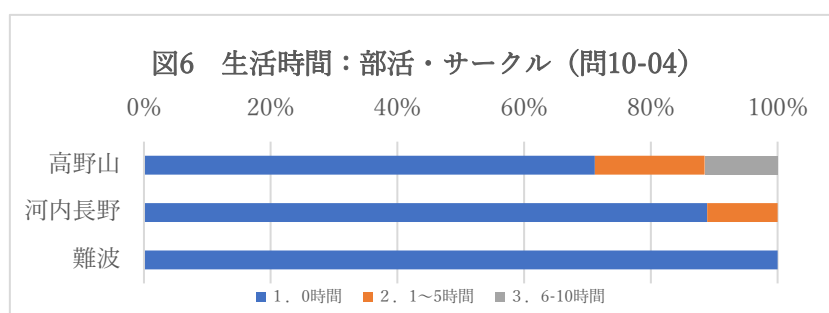
復習・予習時間については、高野山では「0時間」が9.6%であり、「1~5時間」も36.5%ある。河内長野も難波も「0時間」はなく、「1~5時間」が河内長野で88.9%であり、難波で40.0%である。高野山では21時間以上が15.4%と多くなっており、勉強時間の個人差が大きい。



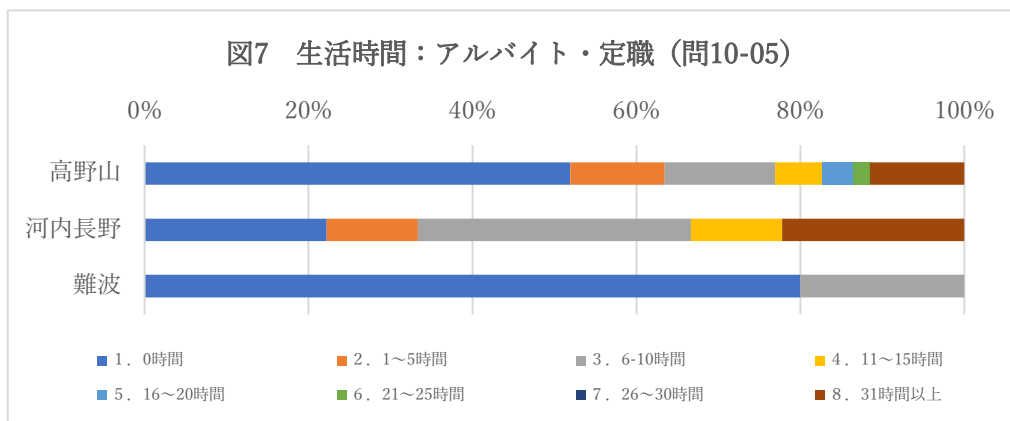
授業外学習時間でも、高野山では0時間が21.2%であるが、21時間以上が15.4%と差が大きい。河内長野は1~5時間に集約されている。難波は1~25時間に分散している（図5）。



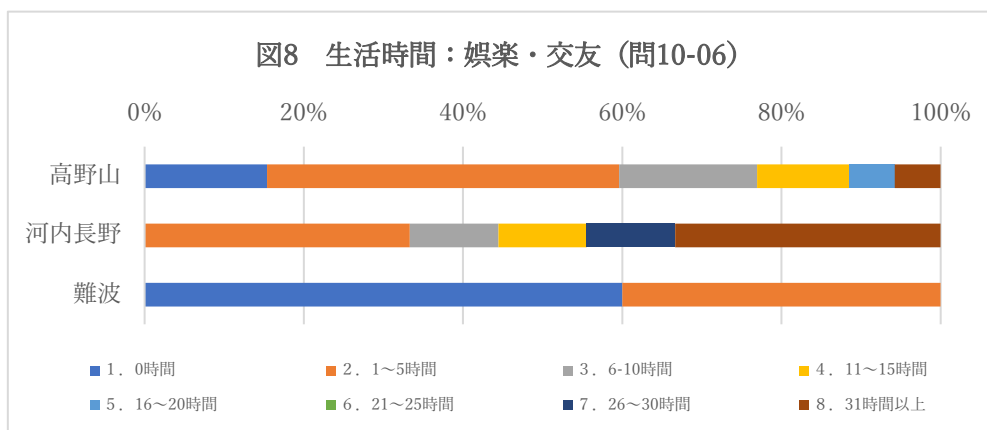
部活動・サークル活動については、当然ながら難波では全員「0時間」である。高野山では「0時間」が71.1%、河内長野では88.9%である（図6）。クラブ活動が盛んでない実態が示されている。



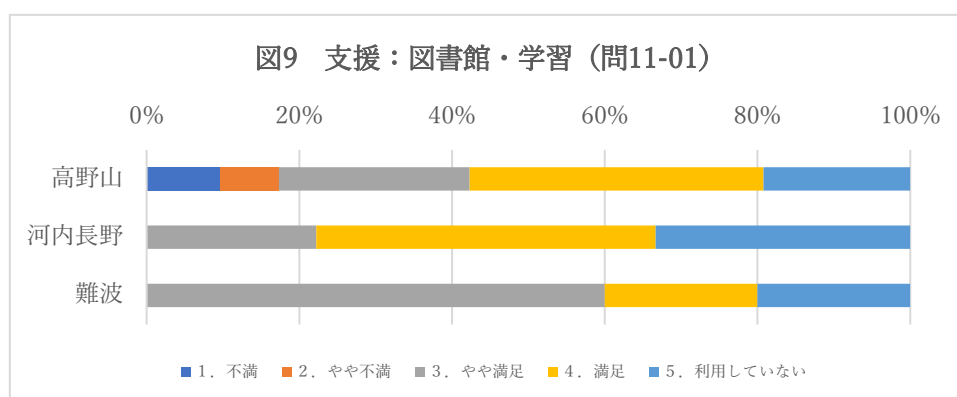
アルバイト・定職の時間は、難波では2020年の調査では「31時間以上」が36.8%であったが、2021年では「0時間」が80.0%となっている。河内長野では「31時間以上」が22.2%あるが、社会人学生である。それ以外は15時間以下であり、平均的な大学生のアルバイト時間である。高野山では「0時間」が51.9%である一方、「21時間以上（1日3時間以上）」が13.5%であり、「31時間以上」が11.5%（6名）である（図7）。長時間の学生については、寺生であると考えられる。全国と比較しても、本学の特徴が表れている。



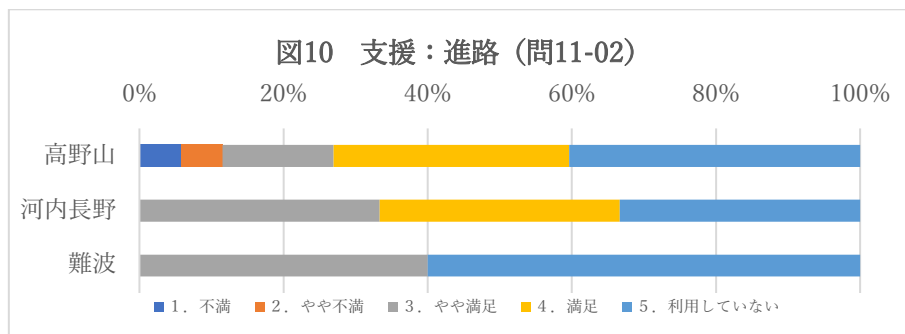
娯楽・交友の時間については、難波では善意が5時間以下であった。高野山では「31時間以上」が5.8%であり、それ以外は20時間以下であり、「0時間」は15.4%であった。それに対して、河内長野では「0時間」はなく、「31時間以上」が33.3%であった（図8）。高野山と河内長野の環境の差もあるが、学生の行動パターンの違いについても検討する必要がある。



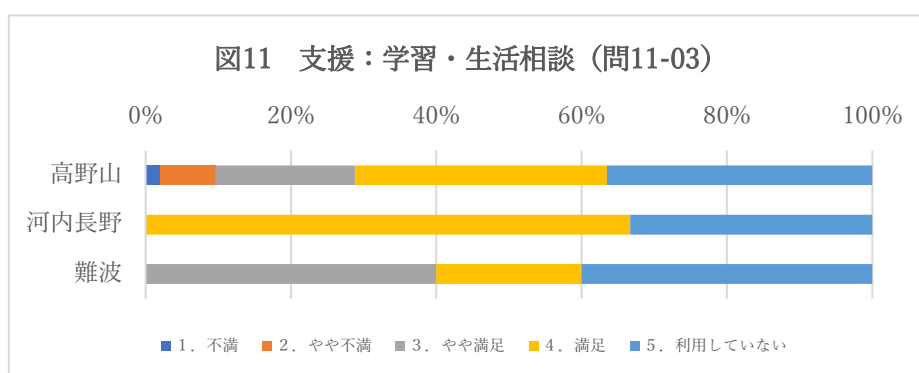
図書館・学修支援の満足度は、河内長野と難波では「利用していない」があるものの、「やや満足」「満足」であった。高野山では「不満」「やや不満」が17.3%ある（図9）。高野山では以前よりも開館時間が短くなっていることが不満となっている可能性がある。



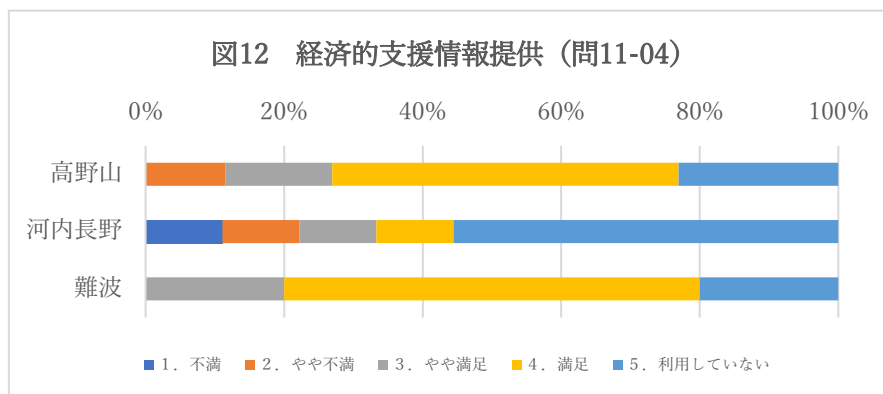
進路支援については、難波では「利用していない」が60%である。河内長野では「やや満足」「満足」が66.7%である。高野山では「利用していない」が40.4%であり、「不満」「やや不満」が11.5%である（図10）。



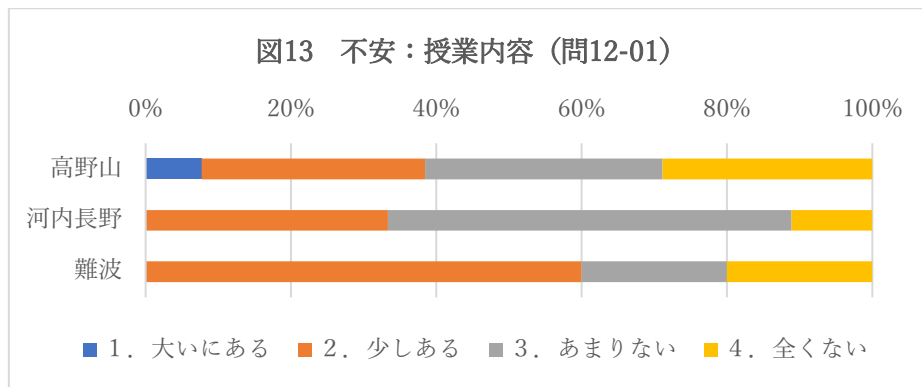
学習・生活相談については、河内長野では「満足」が66.7%である。難波では「やや満足」「満足」が60%である。高野山では「不満」「やや不満」が9.6%ある（図11）。



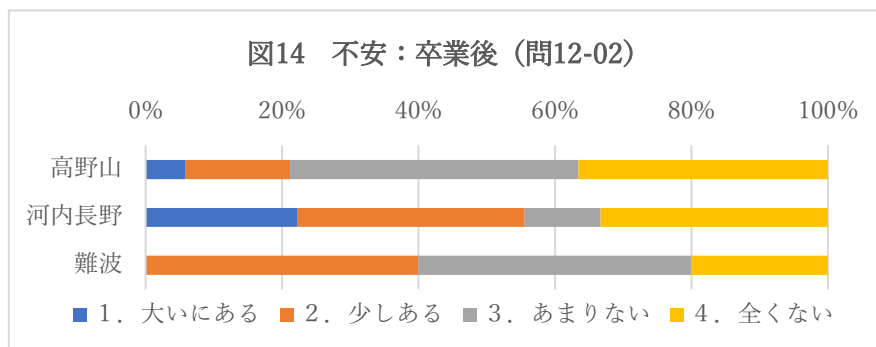
経済的支援情報の提供については、難波では「やや満足」「満足」が多い。高野山では「やや不満」は11.5%であった。河内長野では「不満」「やや不満」が22.2%であった（図12）。



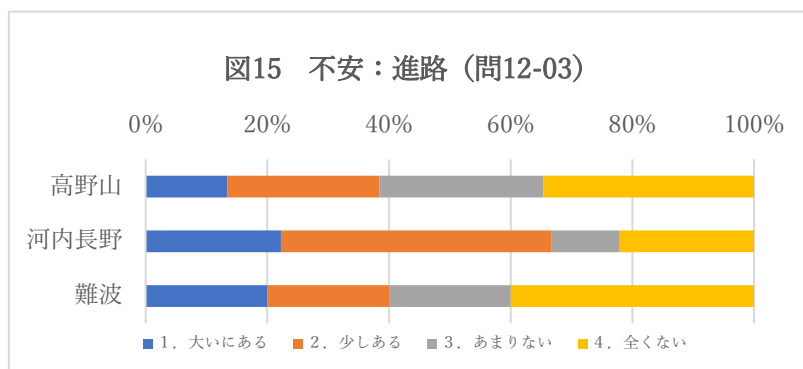
授業内容に対する不安については、河内長野と難波では「大いにある」がいなかったが、高野山では7.7%が「大いにある」であったが、「全くない」が28.8%であった（図13）。



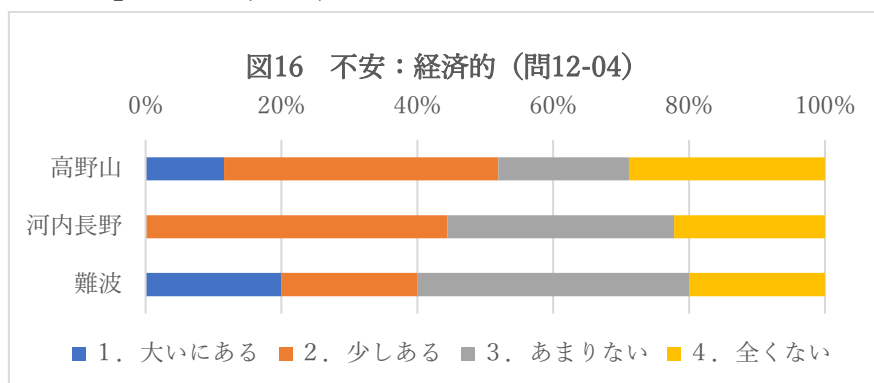
卒業後の不安については、「大いにある」は難波ではなかったが、高野山では5.8%であり、河内長野では22.2%であった。高野山では「あまりない」「全くない」は78.8%であった(図14)。



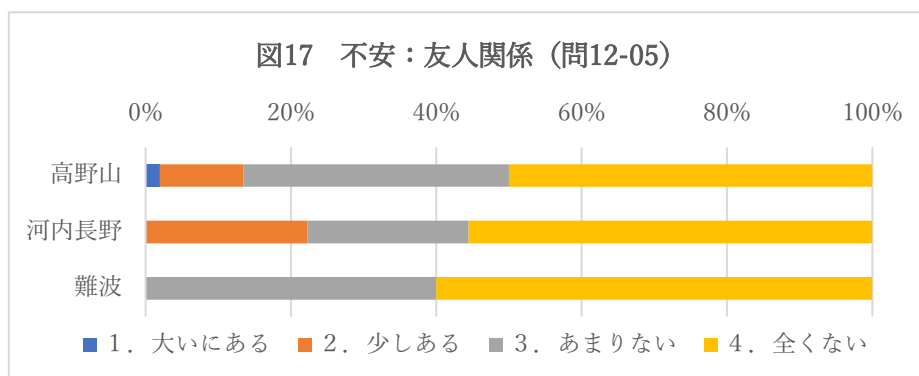
進路の不安については、難波では「大いにある」「少しある」は40%、高野山では38.5%、河内長野では66.7%である(図15)。



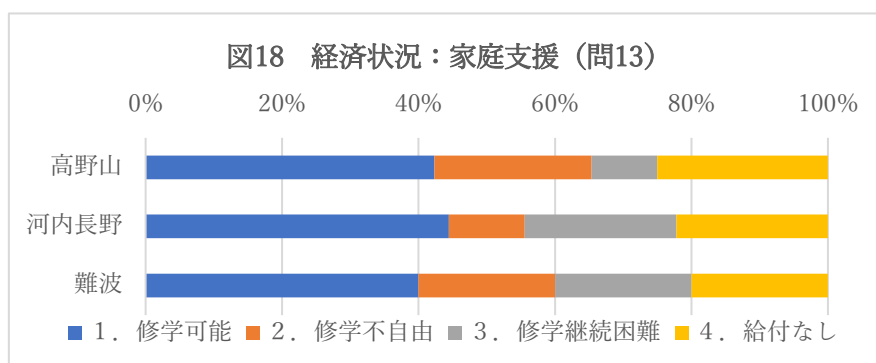
経済的不安については、高野山では「大いにある」が11.5%あるが、「全くない」は28.8%である。河内長野は「大いにある」はない(図16)



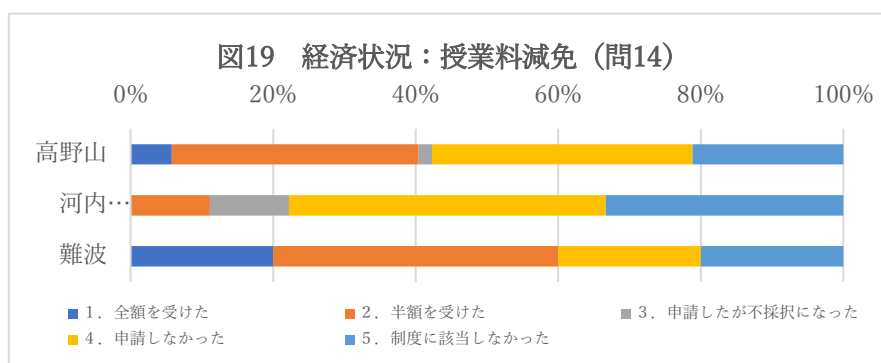
友人関係の不安については、高野山では「大いにある」が1.9%であるが、「少しある」が11.5%である。河内長野では「少しある」が22.2%である(図17)。



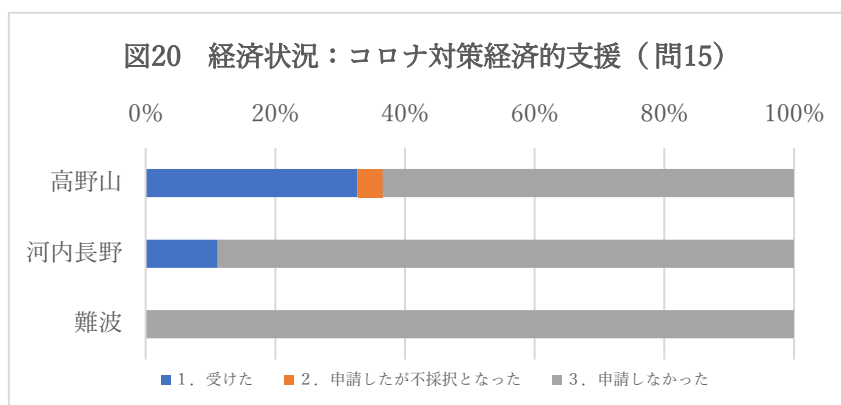
家庭からの経済支援を受けているのは、80%程度である。河内長野では「修学継続困難」が22.2%である（図18）。



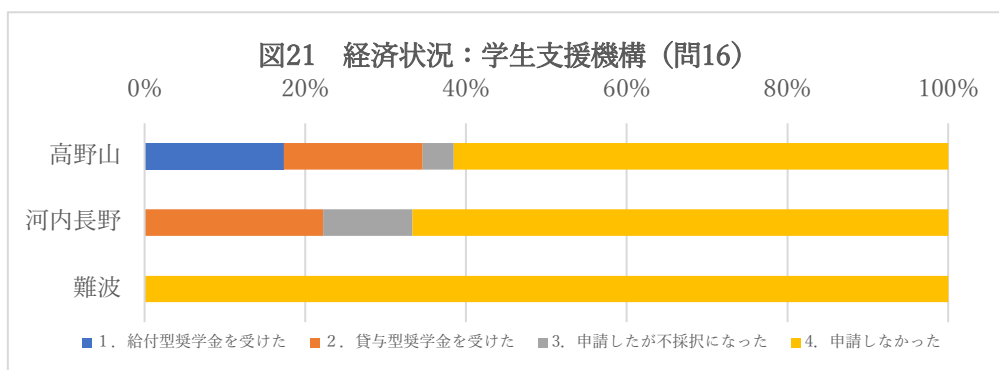
授業料免除については、難波では60%、高野山では40.1%、河内長野は11.1%である。河内長野では申請したのは22.2%である（図19）。



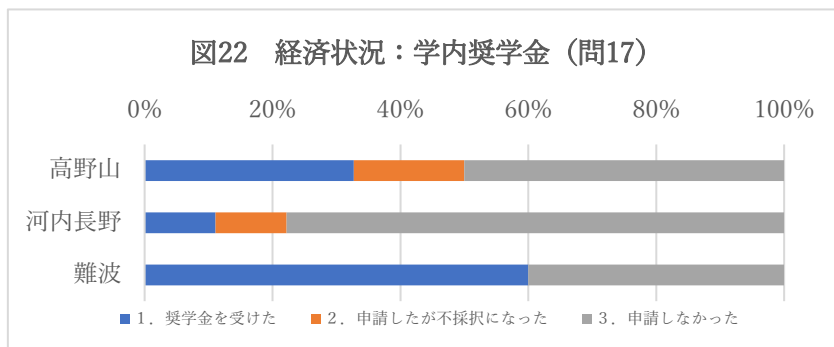
コロナ対策経済的支援については、高野山では32.7%であり、河内長野では11.1%であった（図20）。



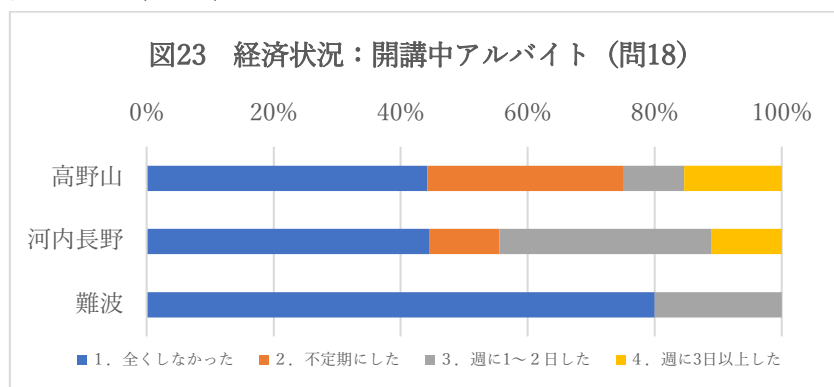
学生支援機構の奨学金については、難波では申請者がいなかった。高野山では34.6%であり、河内長野では22.2%であった（図21）。



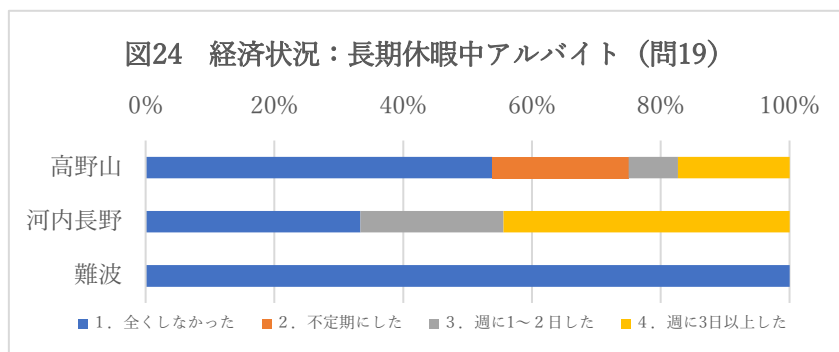
学内奨学金については、難波では60.0%、河内長野では11.1%、高野山では32.7%であった（図22）。



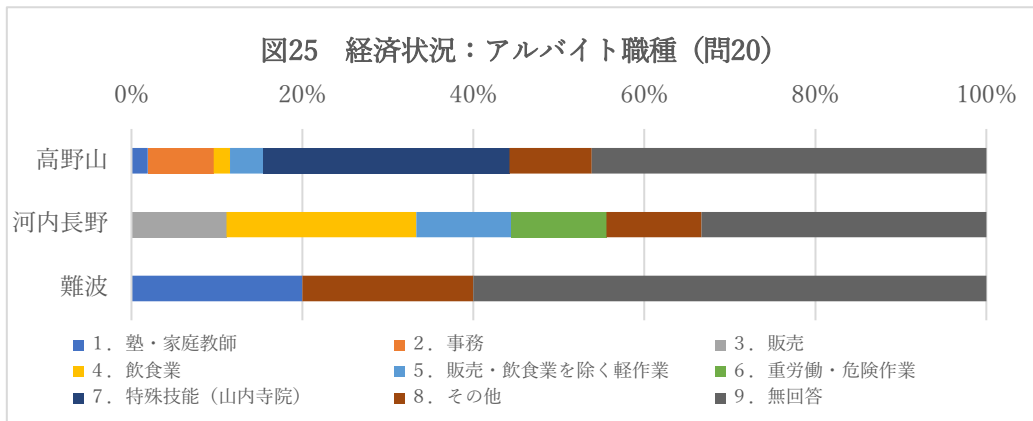
授業開講中のアルバイトについては、高野山・河内長野ともに44%程度が全くしていなかったが、高野山では不定期が多かった（図23）。



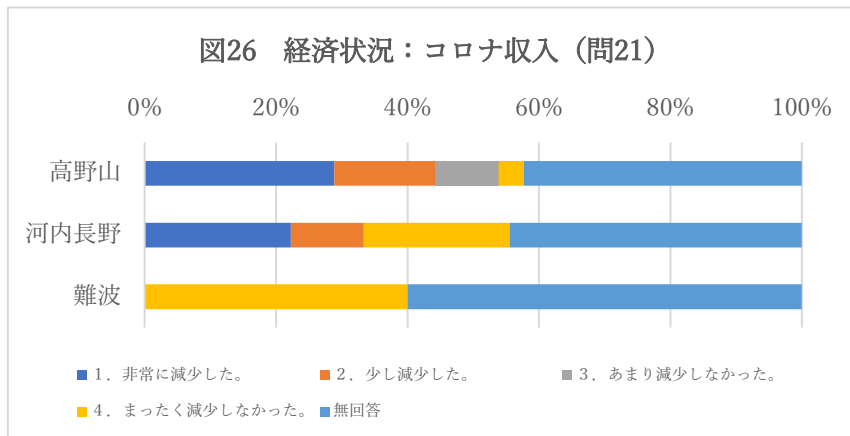
長期休暇中のアルバイトについては、高野山では「全くしなかった」が53.8%であったのに対して、河内長野では33.3%であった。高野山では長期休暇中でも「不定期にした」が21.2%であった（図24）。



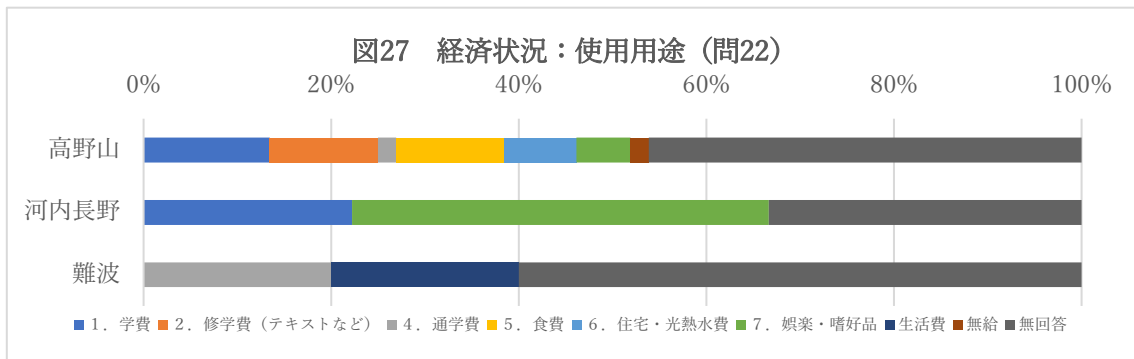
アルバイトの職種として、高野山では山内寺院が28.8%と特徴的であった（図25）。



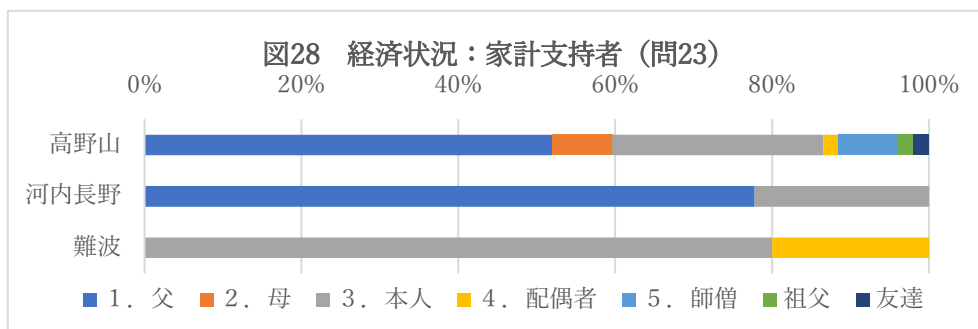
コロナによる収入の減少については、高野山では「非常に減少した」が28.8%であった（図26）。



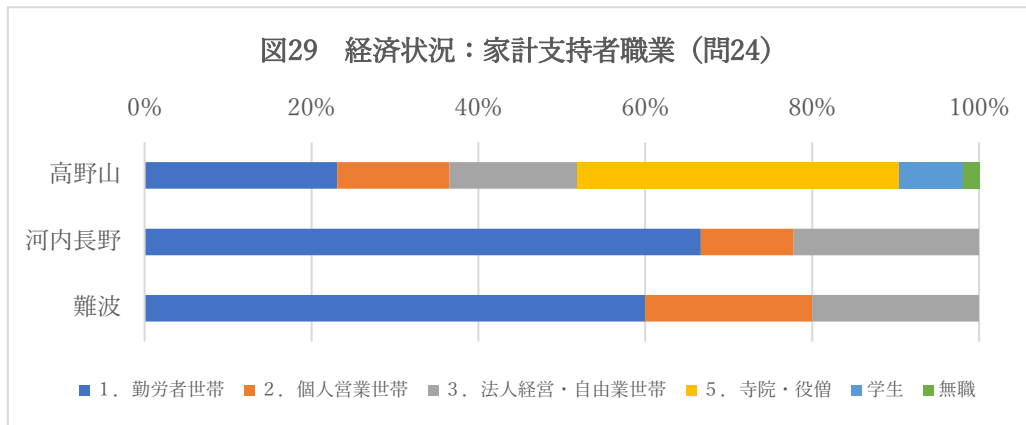
アルバイトの使用用途としては、河内長野では学費が22.2%と娯楽・嗜好品が44.4%であった。高野山では娯楽・嗜好品の購入はあるものの、学費や生活費など多様な用途に使用されている（図27）。



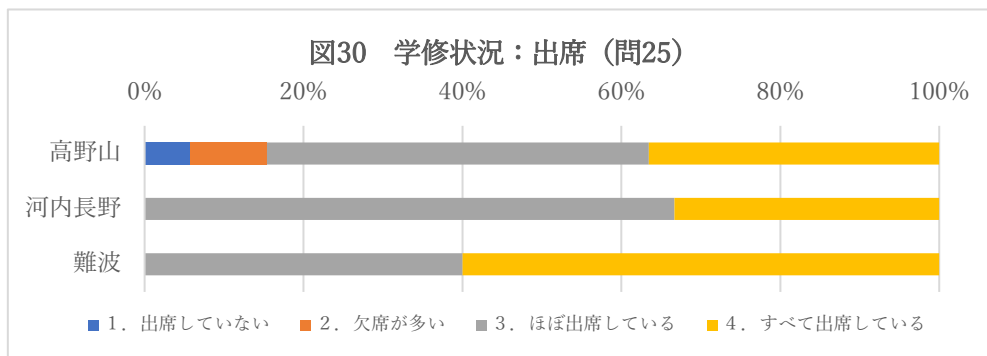
家計支持者については、難波では本人か配偶者であった。河内長野でも社会人を除けば父であった。高野山では父母が多いが、本人や配偶者が多く、師僧もある（図28）。



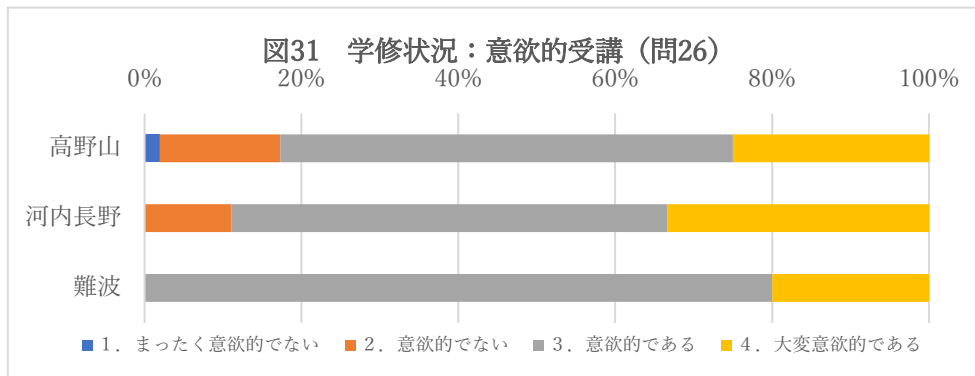
家計支持者の職業については、高野山では寺院・役僧が38.5%であった（図29）。



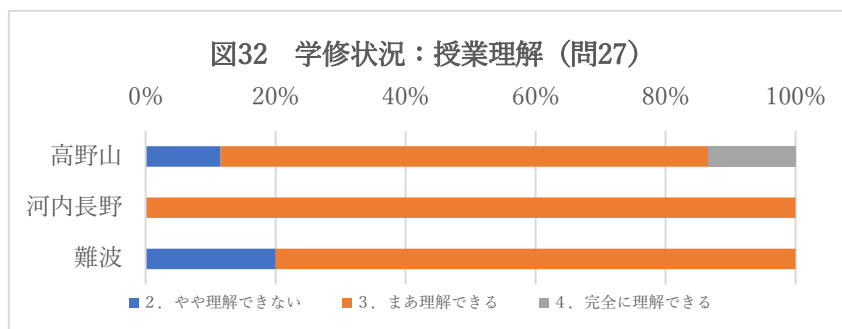
出席状況については、難波も河内長野も出席状況は良好であるが、高野山では17.3%が不良である（図30）。



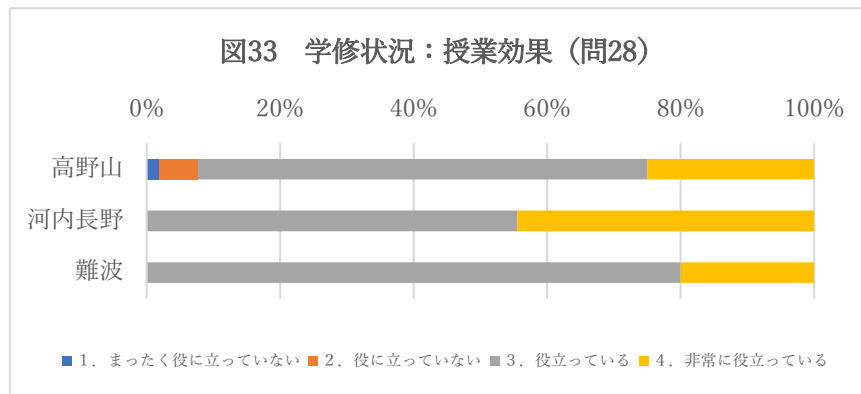
学修に対する意欲では、難波は意欲的であるが、河内長野では「意欲的でない」が11.1%、高野山では「意欲的でない」15.4%、「まったく意欲的でない」1.9%いる（図31）。



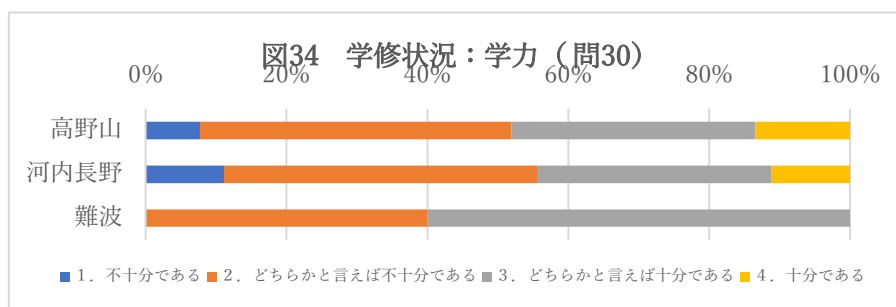
授業理解については、高野山と難波で「やや理解できない」がいる（図32）。



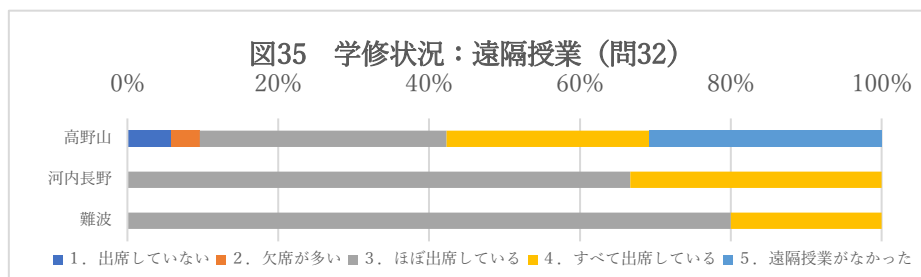
授業効果については、高野山で「役に立っていない」5.8%、「まったく役に立っていない」1.9%いた（図33）。



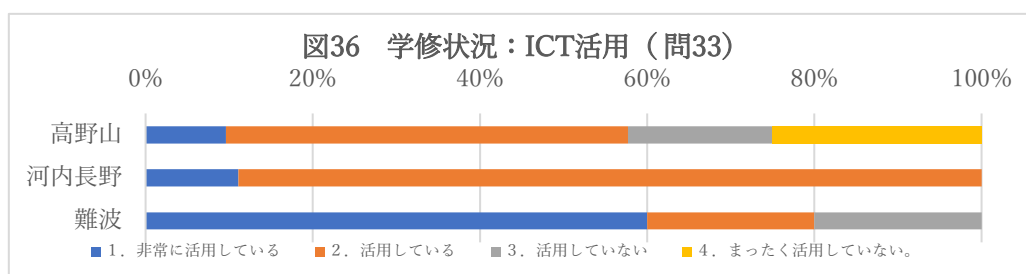
自己の学力の評価については、難波では「不十分である」がいなかったが、高野山と河内長野では10%程度が「不十分」で、「どちらかと言えば不十分である」もあわせると50%以上が不十分であると感じている（図34）。



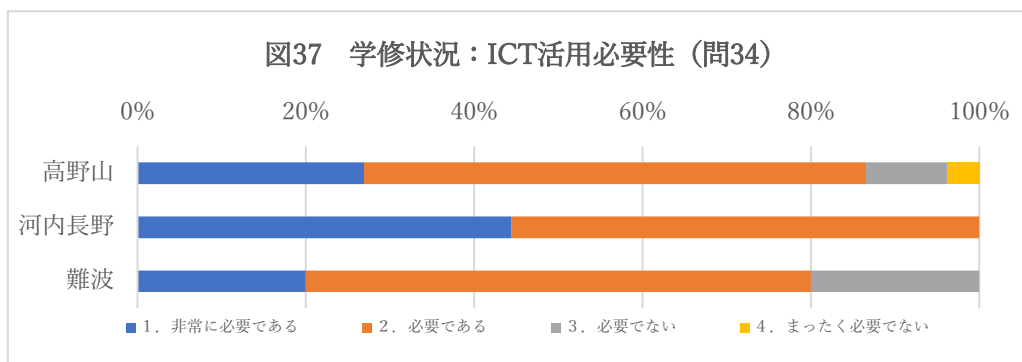
遠隔授業については、河内長野と難波ではほぼ出席していたが、高野山では対面授業が基本になっているために「遠隔授業がなかった」が多い一方、「出席していない」「欠席が多い」が9.6%を占めている（図35）。



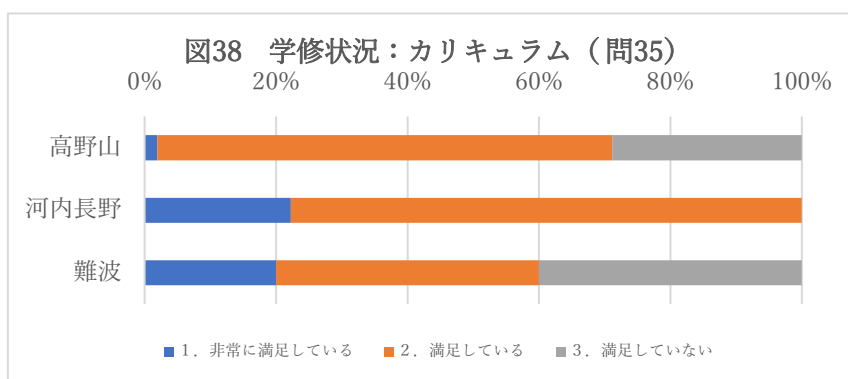
ICTの活用については、難波が「非常に活用している」が60%であり、河内長野では「非常に活用している」が11.1%、「活用している」が88.9%であった。しかし、高野山では「活用していない」が17.3%、「まったく活用していない」が25.0%であった（図36）。



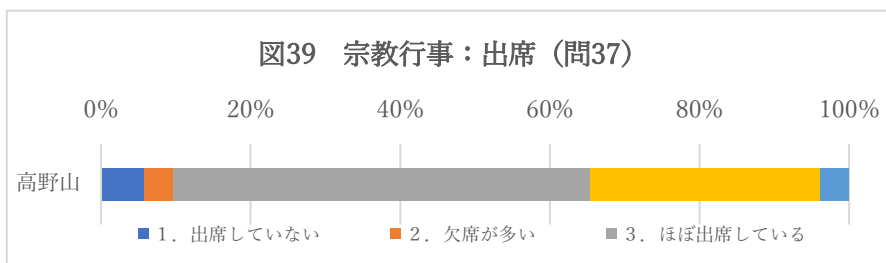
ICTの必要性については、河内長野では「非常に必要である」が44.4%、「必要である」が55.6%である。難波では「必要でない」が20%であった。高野山では「必要でない」が9.6%、「まったく必要でない」が3.8%であり、13.4%が必要でないと感じている（図37）。



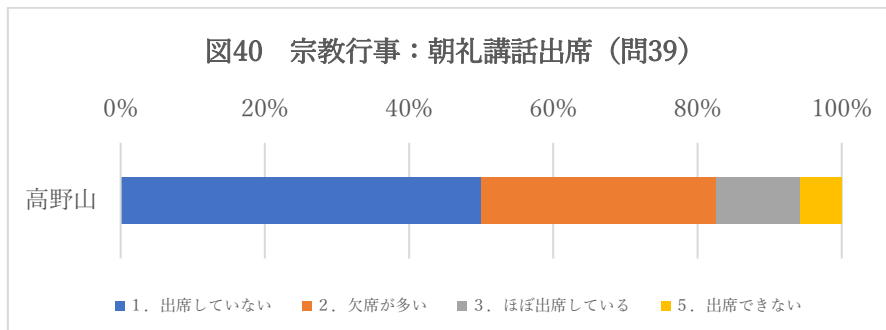
カリキュラムの満足度は、河内長野では「非常に満足している」が22.2%、「満足している」が77.8%であった。難波では「満足していない」が40.0%であった。高野山では「非常に満足していない」が1.9%であり、「満足している」が69.2%であったが、「満足していない」は28.8%であった（図38）。



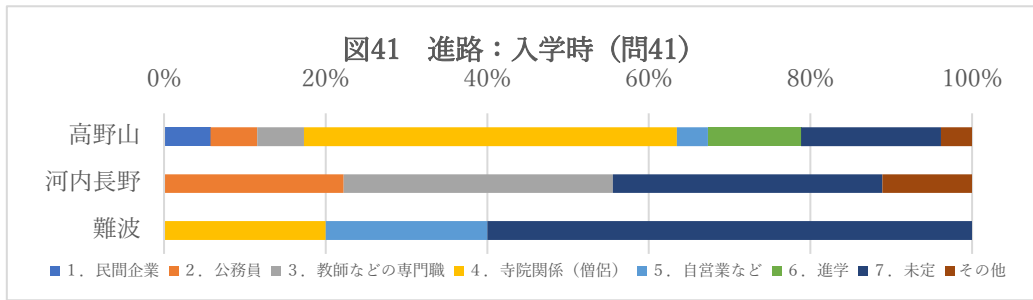
宗教行事の出席については、河内長野や難波は対象外である。高野山では「出席していない」が5.7%、「欠席が多い」が3.8%であった（図39）。回答者の中では出席している者が多い。



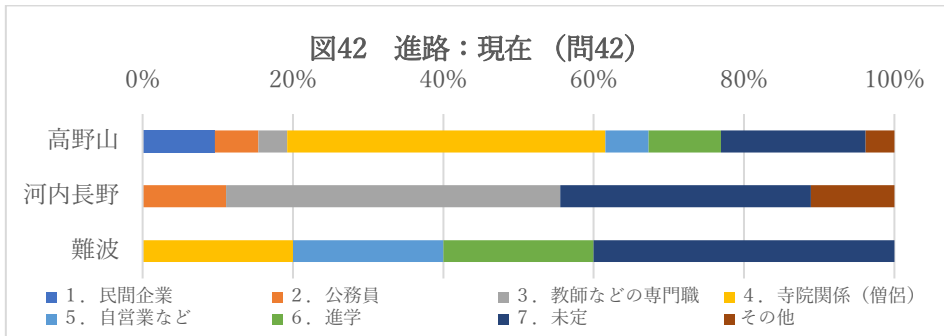
朝礼講話の出席については、河内長野や難波は対象外である。高野山では「出席していない」が50.0%、「欠席が多い」が32.7%であった（図40）。朝礼講話についてはほとんど出席していない状況である。



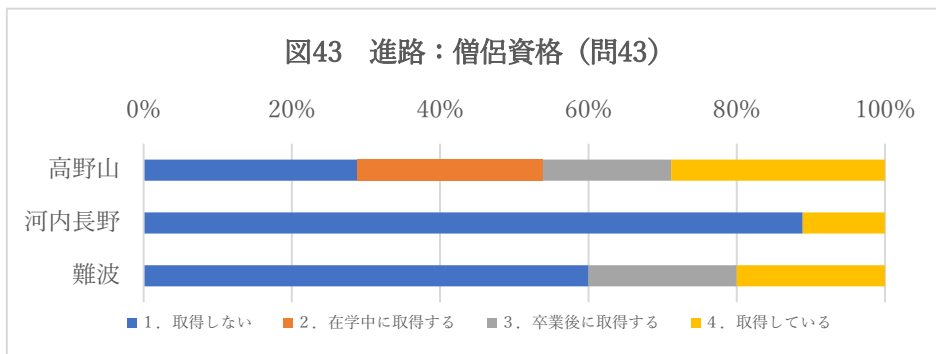
入学時の進路希望については、河内長野では公務員と教師で半分を占めているが、未定も33.3%いる。難波では、僧侶と自営業が20.0%ずつで、未定が60.0%ずつである。高野山は僧侶が46.2%で最も多いが、未定が17.3%で次に多く、さらに進学も11.5%である。それ以外にも多く、僧侶以外の職業も望んでいる（図41）。



現在の進路希望については、河内長野では教員が増えている。難波では進学が増えている。高野山では入学時の進路とほぼ変化がない（図42）。



僧侶資格については、河内長野では「取得している」11.1%を除くと、「取得していない」と回答している。難波では「取得している」が20%、「卒業後に取得する」が20%である。高野山では「取得している」が28.8%、「在学中に取得する」が25.0%、「卒業後に取得する」が17.3%であった（図43）。図42とあわせて考えると、高野山では71.2%が僧侶の資格を取得することとなるが、そのうち42.3%は僧侶を主としないと回答していることになる。



修行段階については、無回答を除くと、「得度」「授戒」が52.0%、「加行」「伝法灌頂」が40.0%であった（図44）。

